

核保有国を国際司法裁判所に提訴

マーシャル諸島共和国前外相 トニー・デブルムさん

有国を国際司法裁判所（ICJ）に提訴しました。人口5万人余の島国の勇気ある訴訟は7日、オランダのハーグで開かれた初めての口頭弁論で始まりました。デブルム前外相に話を聞きました。

（聞き手 伊藤寿麻、写真 橋爪拓治）

マーシャル諸島は、核保有国が核不拡散条約（NPT）の第6条を順守するよう求めて国際司法裁判所に提訴しました。核保有国が地球上から核兵器を廃絶するための交渉を直ちに開始し、誠実に合意を結ぶよう求めるものです。米国、ロシア、英国、フランス、中国に加え、NPT非調印国のイスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮の計9カ国です。米口を含む9カ国はICJの管轄権を承認していませんので、英国、インド、パキスタンだけが審理に参加します。これは予想されたことです。少なくとも9カ国はNPTの義務を認めています。核保有国が核兵器廃絶について交渉するのを定めた唯一の正当性のある外交文書がNPTです。やる気がないのなら、少なくとも調印したのが、核保有国は「NPT調印時の世界から核兵器をなくす」という約束を果たさなければならぬと理解する必要があります。



インタビューを受けるトニー・デブルム氏=1日、静岡県焼津市

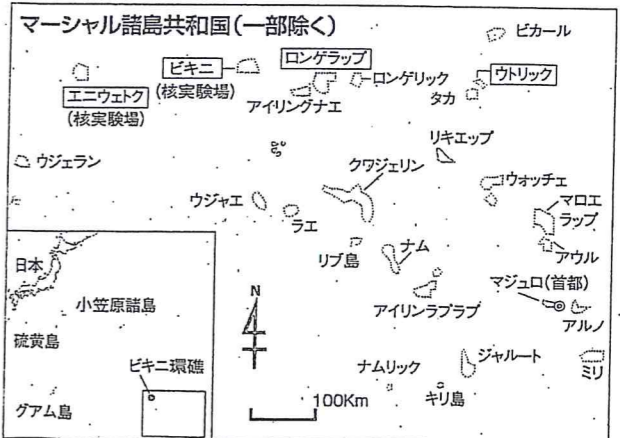
赤旗
2016.3.8

1984年の「ブラボー実験」と呼ばれた核実験が行われた時、私は9歳でした。実験

世代を超えて被害が続く核実験 狂気の核兵器、原発やめるべきだ

核兵器はいかなる種類であれ不道徳であり違法です。文明を持った人間の中に存在することは許されません。

私が小学生の時、母が「核兵器は絶対に悪い」と話していたのを覚えています。その時、母は目を赤くして泣いていました。それは、私が生まれる前のことだったと、母は言っていました。



空が血のように真っ赤に染まりました。それは、私が生まれる前のことだったと、母は言っていました。水や土地が汚染されました。マーシャルの人々が頼っている魚や貝、カニなどの食料が汚染されました。

1945年生まれ。71歳。リキエップ環礁で子ども時代を過ごす。ハワイの大学を卒業後、帰島。上院議員、大統領補佐大臣、外相など歴任。核実験被害や気候変動問題で国際的に活躍。昨年のNPT再検討会議では「この議場に核の閃光（せんこう）を見た方はいますか？」と問いかけながら、核兵器廃絶を訴えました。

若者たちに病気が出ています。被害は世代を超えて広がっています。米国の核実験プログラムは、生き延びた人々の体と心を苦しめ、未来に生きる世代も、この暗黒の歴史の傷を負って生きていくことになるのです。

人間を意図的に被害に曝すことからは重大な健康上の影響の組織的な隠蔽が、被害者たちに与えた最大の影響は、同様に人間に対して行った虐待、欺瞞（ぎまん）も、人間の尊厳の否定にほかなりませんでした。

あなたは今ワシントン環礁の出身の男、妻となる人は汚染された島の出身です。フロロースというところ、あなたはたまたま住んでいます。もし子どもができた時に何か障害があったらどうしよう、と。あなたに遺伝的な問題が生じたらどうしよう、と。その人と結婚すべきかどうか。もし男の子が生まれ、あなたの子供が生まれたら、あなたは、子どもを持つべきではなかったのではありませんか、という考えが、脳裏に浮かびます。

核実験をやった人たちは、核実験をするな、大丈夫だと否定します。核兵器や原子力に関わる分野では、必ず繰り返されるような悪夢が、生徒たちに語り継がれています。1日は学校で、生徒たちがスピーチをしました。7歳になる私の孫も、3年生代表として学校でスピーチをしました。

若い人たちが事業を学び、核のない世界を作り上げていくことが大切です。命と幸福への脅威の周りは、全く新しい種類の人間が生まれつつあります。